

銀の皿

「勝利者」



今日礼拝で紹介させて頂いた「勝利者」の作詞、作曲者、小坂忠さんはクリスチャンになった後、プロのロックミュージシャンからゴスペルシンガーへと活動の場を移しました。しかしその後、人々に受け入れられない時期が続いたそうです。そんな中、同じ時期に活動していたミュージシャン達がどんどん活躍している事を知った時、「自分の進む道は本当にこれでよいのか?」と不安になり寂しくなったそうです。

そんなある日、テレビを見ていた時、オリンピックで走るある女性ランナーを目にしました。その人は脱水症状で意識がもうろうとしていましたが、懸命に走り続けました。入賞を逃しても走り続け、大歓声に包まれながらゴールしました。そのランナーの姿に釘付けになり心打たれた時、このように思ったそうです。「例え巷で流れているようなヒット曲を出さなくとも、このランナーのように一人の心を揺さぶる事が出来たなら、それがヒット曲だ」この後、小坂忠さんは自分が信じたイエスキリストの愛を力の限り歌い続けたい、そのような思いから「勝利者」の歌を作ったそうです。

私達も自分の信じた道に一步踏み出して前進してみたものの、「本当にこれでよかったですのだろうか?」と不安になり孤独になる事があります。そしてそういう時に限って結果を出している人がやたらと目につき、うらやましくなったり、みじめな気持ちになる事があります。詩篇37:23 人の歩みは【主】によって確かにされる。主はその人の道を喜ばれる。37:24 その人は倒れてもまっさかさまに倒されはしない。【主】がその手をささえておられるからだ。私達の主は、鞭うたれても罵られても十字架までの歩みを止められませんでした。重い十字架を背負って死に至るまで耐え忍び、従順でした。ここに死の力を打ち破られた勝利者の姿があります。主は主の道を歩み続ける人を喜ばれます。たとえ葛藤しながらでも、涙を流しながらでも、傷ついても、前に進もうとしている人を喜ばれます。そして主はすでに手を差し伸べておられます。私達が出来る事はいつでもその手を取って一緒に歩んでいく事です。私達は一人ではない、神が共にいる。これが私達の力の源です。私達もイエスの名によつて勝利者になることが出来ます。共に主の道を一步づつ前進するものとなりましょう。

